

岡山大学文学部国際シンポジウム

東アジアにおける 人文学の 多様性と可能性

— 歴史をめぐる「問い」の交流 —

2016. **1.30** ± 14:00 ~ 17:00

岡山大学文学部 2F 会議室

講演タイトル

「中国における フランス史研究の 現状と課題」

講演：呂一民 (浙江大学)

コメント：古松崇志 (岡山大学)・王海燕 (浙江大学)

現在、急速な勢いで世界のグローバル化が進行しつつあるが、地球上に拡散した人間の生活は実に多様である。

そうした多様な人間の歴史や文化の相互理解なくして、未来の人類世界を思い描くことは不可能であり、人類史の総体的認識の再構築が求められている。人間についての基礎的な学問である人文学が果たすべき役割は実に大きい。

そこで、本シンポジウムでは、東アジアにおける伝統的学問分野である歴史学を中心にこの問題を取り上げ、中国と日本での歴史をめぐる「問い」の交流をはかることとし、人文学の多様性を検証するとともに、その可能性を追求したい。

主催：岡山大学文学部

問い合わせ先：岡山大学文学部(担当：今津勝紀)
086-251-7408 / kimazu@cc.okayama-u.ac.jp